

一般消費者向けデジタルAV機器5分野60品目の調査を実施

— 2011年2兆973億円（対06年比114.7%）の映像機器分野の拡大がAV機器市場を牽引 —

マーケティング&コンサルテーションの株式会社富士キメラ総研（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉 03-3664-5841）は、このほどデジタル化やネットワーク化が進む一般消費者向けAV機器及び関連製品市場の現状と今後の方向性を調査した。その結果を報告書「デジタルAV機器市場マーケティング調査要覧（2007年版）」にまとめた。

本報告書では、「映像機器」「音響機器」「エンターテインメント/情報機器」「カーAV機器」「メモリーカード」の5分野60品目を対象に、国内市場動向や製品トレンド、参入メーカーの事業展開などをポイントに調査した。うち4分野32品目については世界市場ベースで調査を実施し、地域別市場や海外メーカー動向の把握をした。

<注目品目の動向>

◆国内液晶/PDP-TVと次世代TV◆ 液晶TV 2006年 5,600億円（前年比33.2%増）
PDP-TV 2006年 1,550億円（前年比31.4%増）

06年の液晶TV市場は、製品の低価格化に加え、地上デジタル放送の視聴可能エリアが拡大したことによりCRT-TVからの買換えが進み、前年比134.9%の580万台となった。大幅な低価格化が進んでいるものの、大画面化やフルHD対応モデルの販売増により金額ベースでも拡大した。アナログ停波に向けて今後も需要が拡大し、2011年にはポータブルTVを除くTV市場の87%を占める990万台まで拡大すると予測される。サイズ別には現在普及しているCRT-TVのワンランク上のサイズが選択されていることから30～40インチクラスの構成比が高まっている。今後は2台目以降や単身世帯向けのパーソナルTV需要が本格化する見込みであるが、パネルの低価格化により大型と小型モデルの価格差が縮まっていることから大型モデルの構成比が高まるものと予測される。現在PDP-TVが主流の50インチ以上についても液晶TVの比率が高まる見込みである。06年のPDP-TV市場は、前年比163.8%の77万台となった。2011年にはポータブルTVを除くTV市場の12%を占める142万台まで拡大すると予測される。大画面化と低価格化が進む液晶TVに需要が割かれていることから、液晶TVと比較してコストメリットの高い50インチ以上の大画面の製品構成比が高まると予測される。

次世代TVとして、SED-TV（表面伝導型電子放出素子ディスプレイを表示デバイスとするTV）とEL-TV（有機ELディスプレイを表示デバイスとするTV）が期待される。SED-TVは動画対応性や高コントラストなどによる総合的な画質評価が高いことから、まずはハイエンドユーザーを中心とする需要拡大が予測される。EL-TVのディスプレイはCRTと同様の自発光型で、液晶と比較して薄型、軽量、低消費電力、高コントラスト、高視野角、高速応答という特長があり、液晶を代替する次世代ディスプレイとして期待されている。一方では大型化が困難で、現在は携帯電話やカーオーディオ、デジタルカメラなどの小型モニターでの採用となっている。また、パネル寿命が短いという短所もある。何れも発売は07年中と見込まれ、当初は液晶/PDP-TVと比較し高価格帯と見込まれ、また、これまでにない新方式のTVということもあり、まずは新しいものを進んで採用する人による需要形成となる見込みである。両者の本格的な市場の立ち上がりは2011年のアナログ停波に向けた薄型デジタルTVの買い替え需要期と予測される。

◆国内次世代DVDレコーダー/プレーヤー◆ レコーダー 2006年 69億円（前年比309.5%増）
プレーヤー 2006年 8,000万円（ - ）

06年の次世代DVDレコーダー/プレーヤー（Blue-ray/HD DVD）の市場規模は、数量ベースで4万台、金額ベースでは70億円となった。録画ニーズの高い国内市場では、その殆どがレコーダーである。レコーダーが03年、プレーヤーが06年にそれぞれ立ち上がった市場であるが、06年時点では価格がネックとなって普及に至らず、DVDレコーダー/プレーヤーに占める次世代製品比率はそれぞれ1.2%、0.1%である。普及の進まない要因として「Blue-ray Disc」と「HD DVD」の規格争いによる買い控えも考えられるが、現在のところ規格

統一は見送られ、両者が共存する形で市場が形成されている。06年末には地上デジタル放送の視聴可能エリアが全国に拡大し、また次世代DVDの対応パッケージソフト（映画など）数も増加していることから、ハイビジョン視聴ニーズは確実に高まっており、また、ハイビジョン画質をそのまま表示するフルHD対応TVも増加していることから、今後の低価格化により現行のDVDに替わるメディアとして需要が大幅に拡大すると見られる。高出力レーザーの歩留まり改善などによって次世代DVDの安定供給が可能となれば、低価格化が進んで需要が拡大すると予測される。

「Blue-ray Disc」と「HD DVD」の両規格に対応するLG電子のUniversalプレーヤーは、既に北米市場で販売されており、国内には08年の発売が見込まれる。現在は単一規格対応のプレーヤーに比較し高価であるが、現行のDVDがマルチドライブの投入によって普及が進んだこともあり、低価格化によっては今後の需要拡大が見込まれる。他メーカーによる追従は今のところ発表されていないが、対応ドライブの低価格化によって参入メーカーが増加すれば、更なる市場拡大が期待される。

◆国内デジタル一眼レフカメラ◆ 2006年 460億円（前年比17.9%増）

06年のデジタル一眼レフカメラは、軽量・小型化が進んだことによってコンパクトカメラからの買換え需要を含む幅広いユーザー層の需要開拓が進み、前年比130.9%の72万台と大幅に拡大している。大型のCMOSセンサーによる高画質を特長とし、有効画素数では1千万画素を超えるモデルが増えている。また、画像処理エンジンの改良や連写性能、シャッタータイムラグ、起動速度など、プロカメラマンやハイアマチュア層の需要に対応する総合的な高画質化・高機能化が進められている。

デジタル一眼レフカメラに対しては、コンパクトカメラの低価格化が進行する中で、収益率が高く、また交換レンズやアクセサリなどの追加販売もあり、メーカーの注力度が高まっている。特にフィルム一眼レフを展開しているカメラメーカーにとっては、従来からのレンズ資産を生かしたユーザーの囲い込みが期待される分野といえ、今後は更なる低価格化により、市場は拡大すると予測される。

<調査結果の概要>

1. AV機器 国内市場 2006年 4兆4,708億円 → 2011年予測 4兆7,855億円

(1) 映像機器分野 2006年 1兆8,278億円 → 2011年予測 2兆973億円

映像機器市場は2011年のアナログ放送終了に向けたデジタルTV需要の拡大に加え、薄型TVの大画面化やフルHD対応TV、HDD搭載DVDレコーダー、次世代DVDレコーダー/プレーヤー、ハイビジョンビデオカメラ、デジタル一眼レフカメラ等の高価格モデルの台頭により拡大が予測される。

表示機器（TV）市場は液晶/PDP-TVが牽引しているが、この他にもSED-TVやEL-TVが製品化される予定であり、薄型・デジタルTVデバイスの多様化が予測される。VTRやDVDレコーダー/プレーヤーなどの映像記録・再生機器市場では、今後デジタル放送の普及に伴うハイビジョン視聴ニーズの高まりや対応パッケージソフトの増加により次世代DVD需要が拡大すると見られる。入力・撮像機器（カメラ）市場ではデジタルビデオカメラ市場が飽和する中で、記録メディアの多様化やハイビジョン対応により大幅な単価下落を免れている。また小型化・低価格化が進むデジタル一眼レフカメラの構成比が高まっている。チューナーやSTBなどの放送受信関連機器市場では地上デジタル放送チューナーに加え、地上デジタル放送を再送信するCATV-STBの需要が拡大している。

(2) 音響機器分野 2006年 2,333億円 → 2011年予測 2,173億円

06年の音響機器市場はシステムコンポ（HDD）やホームシアターシステムが拡大しており、市場を牽引している。AVコンポーネント市場ではピュアオーディオ市場が再び盛り上がりを見せてきている。中高年層に加え、若年層にも音質を求めるユーザーが現れ始め、CDやレコード等の旧来型コンテンツの見直しも出てきた。コンテンツ管理をシステムコンポからPCやホームサーバが担う形になり、音楽に触れ合うスタイルの変化が今後見られると予測される。ホームシアターシステムでは、薄型TVの大型化に伴い、映画だけではなくスポーツ番組や環境系番組等でも臨場感あふれる音を楽しみたいというニーズが出てきていることから、TV購入時にラックスピーカーを購入する傾向が出てきており、市場が拡大してきている。

(3) エンターテインメント/情報機器分野

2006年 2兆1,078億円 → 2011年予測 2兆1,431億円

06年のゲーム機市場は「Wii」や「プレイステーション3」、「ニンテンドーDS Light」等の新製品の投入が相次ぎ、活気付いている。携帯電話は「ワンセグ放送」「電子マネー」等機能の複合化が進むなど、通話以外の機能を取り込んでおり、生活必需品としての位置づけが強くなった。同市場は飽和状態になりつつあるが、上記新機能を付加した製品に対する需要は大きく、市場も拡大していくと予測される。

(4) カーAV機器分野 2006年 2,025億円 → 2011年予測 2,310億円

カーAV機器市場はAV機能を搭載したカーナビゲーションシステムを中心に拡大している。機能が一元化されていることから、カーTVやヘッドユニットなどの単機能製品市場は減少しており、カーナビゲーションシステム比率の増加が進むと見られる。地上デジタル放送開始に伴って対応製品への需要が増加しており、更に地上デジタルTVチューナー市場も立ち上がるなど、市場拡大要因の一つとなっている。

(5) メモリーカード分野 2006年 995億円 → 2011年予測 969億円

デジタルスチルカメラ、携帯電話の主要機器で主流となったSDメモリーカードが市場を牽引しており、当該市場のデファクトスタンダードになりつつある。メモリースティックはソニー製品ユーザー向けのメモリーカードとなっており、安定した市場となっている。xDピクチャーカードとコンパクトフラッシュは対応機器にSDメモリーカード対応製品が登場しており、ユーザーの移行が見込まれる。

2. AV機器 世界市場

◇液晶/PDP-TV世界市場◇

07年の液晶TVの世界市場は5,800万台、PDP-TVは1,385万台と見込まれる。

CRT-TVからの買い替え需要で液晶TVは、製品の低価格化に伴い世界各地で市場が拡大している。デジタル放送の開始で、大画面/高精細化のニーズが高まり、コストパフォーマンスに優れる液晶方式が主力となり、2011年にはTV市場の60%超まで占めると予測される。

PDP-TVは、液晶TVよりワンサイズ大きい画面サイズで差別化されていたが、液晶TVの大画面化に伴い、現在は各サイズにおいて液晶と競合している。アジア/南米といった新興市場向けの販売も増えており、2011年にはTV市場の11%を占めるまでに拡大すると予測される。

◇映像記録・再生機器市場◇

デジタル化の進行に伴い、VTRからDVDへシフトしている。07年の映像記録・再生機器市場は1億7,947万台と見込まれる。DVDプレーヤーは低価格化が進み、今後も中国や南米、アフリカなどを中心に販売される見込みである。次世代DVDは、レコーダーでは日本、プレーヤーでは北米が中心の販売となっている、今後は世界的にもDVDから次世代DVDへシフトしていくと予測される。

<調査対象>

A. 映像機器 28品目

1. 表示機器 (11品目)、2. 映像記録・再生機器 (8品目)、3. 入力・撮像機器 (4品目)、4. 放送受信関連機器 (5品目)

B. 音響機器 18品目

C. エンターテインメント/情報機器 5品目

D. カーAV機器 5品目

E. メモリーカード 4品目

※計60品目を対象。内、32品目については世界市場動向を調査

<調査方法>

弊社専門調査員による調査対象先/関連企業各社への直接面接取材を基本とした。又、合わせて弊社データベースの活用、公的データの収集・活用を行った。

<調査期間>

2007年2月~2007年5月

以上

資料タイトル : 「デジタルAV機器市場マーケティング調査要覧 (2007年版)」

体 裁 : A4判 309頁

価 格 : 97,000円 (税込み101,850円)

CD-ROMセット価格107,000円 (税込み112,350円)

調査・編集 : 株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門

TEL:03-3664-5815 FAX:03-3661-5134

発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5841(代) FAX 03-3661-7696 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <http://www.fcr.co.jp/>